

エッセイ情報

日産合成工業株式会社

本社 TEL:03-3716-1211 FAX:03-3716-1214
http://www.nissangosei.co.jp

子牛の損耗を少なくしよう(2)

飼料穀物・原油価格の低下など明るい兆しは増えてきましたが、酪農情勢の厳しさはまだ続いています。このような中で収益性を改善するためには、哺育・育成コストの低減、初産分娩月齢の短縮など哺育、育成分野の効率を高めることが収益性を改善する大きなポイントとなります。

ここでは「哺乳子牛の飼養管理を総点検」(Dairy Japan2007年10月臨時増刊号)の武中慎治氏の記事を参考にして、哺乳子牛の取り扱いのポイントと子牛に対するエネルギーや電解質などの栄養素の補給を主眼とした混合飼料について紹介します。

母牛の飼養管理

子牛のことを考える前に、まず母牛が健康な状態で正常に出産し、質の高い初乳を子牛に給与できることが重要です。そのためには、母牛が分娩前後に病気にならないように、乾乳期の飼養管理を適切に行うことが必要です。このため、分娩前の母牛には、飼料中の蛋白含量(乾物中 CP で大体 12~15%程度)に気

をつけて粗飼料を十分に摂取させること、エネルギーの摂りすぎに気をつけること、ミネラルバランスに気をつけること(ミネラルバランスの指標となる DCAD については酪農・豆知識 第19号参照)、そして母牛のストレスを最低限に抑えることが重要です。

子牛の哺育環境と疾病の関係

1)分娩時の管理

分娩はできるだけ清潔で乾燥した場所で行い、生まれた子牛はワラや布で拭いて毛を乾かします。冬場は寒冷ストレスで免疫力を落とすので、できるだけ早く体を乾かすことが重要です。臍の緒は必ず7%ヨードに浸して消毒し、できるだけ早く(1時間以内)親牛から離してください。

出生直後の子牛は免疫を持っておらず、病原菌に対してはまったくの無防備です。出産した場所や母牛はさまざまな病原体を持っているので、そこにいる時間が長ければ長いほど子牛は多くの病原体にさらされ、病気になる確率が高まります。

2)子牛の飼育環境

子牛が無事に生まれても、その後、下痢や肺炎になって死んでしまうと経済的に大きな損失となってしまいます。

でも構いませんが、重要なことは、①親牛から離れている、②清潔で乾燥している、③風が吹き込まない、④換気が良い、ことです。

子牛を飼う場所はカーブハッチでもペン

子牛は気温が低くても、乾燥した敷料が十

分あり、隙間風が入らない状態であれば外でもまったく問題なく生きていけます。寒いからといって閉めきって、換気が不十分な舎内に置くと、結露によって敷料が濡れ、

かえって体温を奪われたり、アンモニアやダストの影響で肺炎などの呼吸器疾患を起しやすくなったりします。

3) 病気の早期発見

子牛の死亡率を下げるためには、下痢、肺炎を早期に発見し、適切に対応することが重要です。疾病の早期発見のためには、哺乳時によく観察することが必要です。便の状態だけでなく、哺乳時に起き上がって

くるのが遅い、鼻から色のついた鼻水が出ている、咳をする、背を丸めて立つ、毛づやが悪い、毛が立っている、頭を傾けている、耳がたれているなどの症状をいち早く見つけ、すぐに対策を講じなければなりません。

哺乳について

子牛は生後 1 ヶ月くらいまで維持と成長に必要なエネルギーと蛋白などの栄養素をすべて哺乳から得ています。このため哺乳のやり方次第で子牛の初期成育は大きく変わりますので、哺乳に当たっては、全乳と代用乳、どちらが良いか、代用乳の選び方、哺乳量、栄養性の下痢、哺乳回数、スターター給与の重要性、水の給与、粗飼料の給与、離乳時期な

ど多くの難しい問題に直面します。これらの問題への対応については、上記の書物が役立ちます。必要に応じて参照されることをお勧めします。ニッサン情報でも折を見て紹介してゆきたいと思います。

要するに、哺乳で大事なことは哺乳に関する基本的事項を理解して、それぞれの状況に合わせて最適な方法を選択することです。

それでも子牛の体調が万全でないとき

このような注意を払っても、子牛が思うように成長してくれないことがあります。それには、いろいろの原因が考えられますが、哺乳期間の栄養補給が十分でないことも大きな原因の一つになります。繰り返すようですが、

子牛は生後 1 ヶ月くらいまで維持と成長に必要なエネルギーと蛋白などの栄養素をすべて哺乳から得ています。子牛の損耗を防ぎ、健康な子牛を育てるためには、栄養補給が極めて重要になります。

カーフセリッシュ

当社では、子牛用栄養補給食としてカーフセリッシュを販売しております。カーフセリッシュは消化と吸収の良い脂肪酸・蛋白質・炭水化物のほか、微量栄養素として、ビタミン・ミネラル・電解質をバランスよく配合してあります。また、腸の活動を活発にして整

腸に働くビフィズス菌の増殖因子であるオリゴ糖を配合してあります。

衰弱した消化管からもよく吸収されるように調製してありますので、体調が万全でない子牛の体力維持に最適です。

カーフセリッシュについては、当社ホームページ(下記のアドレス)で紹介しております。
また、ご質問等がございましたら、ホームページ中の「お問い合わせ」のページをご利用ください。

日産合成工業株式会社 TEL:03-3716-1211 FAX:03-3716-1214

<http://www.nissangosei.co.jp>